

教育長 殿

宮城県白石高等学校七ヶ宿校  
校長 小野 正美



令和5年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- 【生徒の学力向上、及び進路志望達成に関すること】  
 ① 生徒の進路志望達成に向けた取組の強化  
 ② 学習における課題把握と、課題克服に向けた取組  
 ③ 学習意欲の醸成と、学習に対する主体的な取り組みの促進  
 【生徒の主体的な活動、及び主体性の育成に関すること】  
 ④ 部活動、及び学校行事における生徒の主体的な活動・取組の推進  
 ⑤ 生徒会活動等の一層の活性化によるリーダー的生徒層の育成と学校の活性化  
 ⑥ 不応適傾向を示す生徒に対する関係づくり、及び「チーム対応」「外部機関との連携」の推進  
 【地域との連携、及び情報発信に関すること】  
 ⑦ ホームページ、学校通信、学校訪問等を通じた、入学志願者確保のための広報活動の強化  
 ⑧ 七ヶ宿町主催の行事への参加等を通じた、地域との連携強化

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している      B おおよそ達成している      C あまり達成していない      D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導・進路指導	① 国数英の習熟度学習における、生徒の理解度と教職員の取組み	A	今年度初めて採択された「学びの基礎づくり支援事業」により、学習サポーターを任用（非常勤講師と兼任）した。放課後時間を活用した学習会を、6月～1月まで述べ25回実施し、1～3年生の希望する8人が受講した。進学や検定試験、定期考査など各自の目標に向けた主体的な学習への取組を促すことができたと考えられる。今後はさらに全職員での取組に広げていくことと、生徒の意欲を喚起する授業改善は、継続的に取り組むべきと考えられる。	A	A
	② 学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付ける授業の定着と保護者の受け止め	B			
	③ 学びや心のサポートなど、先生方が協力し生徒の達成感を支援する取組	A			
	④ 進路目標の明確化に向けた適切な指導と生徒・学校が進路目標に向けた努力の歩み	A			
学校関係者評価委員会における意見	特になし				
主体的な生徒の育成	① 有意義な学校行事や、地域連携での町の行事への参加	A	県高校教育課「地域とともにある魅力ある県立高等学校づくり支援事業」に採択され、新たな行事として5月2日に七ヶ宿町歴史探訪ツアーを実施した。水と歴史の館の元館長に講師を依頼し、町内12ヶ所の名所旧跡を年度始めの時期に訪ねて歩くことができたことは、地域への愛着を深め、その後の学校生活のモチベーションを高める上で有効であった。その他学校行事への出席率が高かったことから、有意義な行事として生徒に浸透していると評価できる。基本的な生活習慣の指導については、地域からの評価も低めであることから改善が必要である。	A	B
	② 基本的な生活習慣の指導（礼節・マナー等）や、挨拶の励行	B			
	③ 教員やカウンセラーによる必要な相談に応じる体制の十分な実施	A			
学校関係者評価委員会における意見	特になし				
地域との連携・情報発信	① 学校だよりやホームページ等での積極的な情報発信と開かれた学校づくり	B	学校便りは、町内の全戸配付を継続し、ホームページ「今日の七校」により、随時学校の様子を配信することができた。県教委との共催による「みやぎ県民大学」は、七ヶ宿町の魅力を伝える目的で昨年同様、町の関係者に講師を依頼し、7月と12月に計2日間実施することができ、七ヶ宿町内の文化人等との交流を深めることができた。PTA活動に関しては、コロナ感染症上の分類が5類に移行したことを受け、数年間開催できなかった活動を復活させ、PTAの相互交流の活性化につなげたい。	A	A
	② PTA関係との連携が図られていることと、スムーズな運営	A			
	③ 七ヶ宿町内の人材・施設・史跡・自然等を取り入れた、特色ある教育活動	A			
学校関係者評価委員会における意見	・校舎など建物の老朽化が気になる。修理修繕等はどうになっているか？また学校統合の状況も気になるが、学校の存続を今後もお願いしたい。（→大河原土木事務所の調査により、必要に応じて修繕している。建て替えについては継続して要望している。また現状では学校再編計画にも入っていない。七ヶ宿校の役割は、県の方では大事にしたいと考えられている。）				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 特性のある生徒など多様な生徒に応じた進路指導	多様な背景をもつ生徒の進路選択とその実現のために、障害者雇用を含めた進路情報について、生徒・保護者と学校が共有し進めていく。
② 地域連携事業のさらなる充実	令和5年度新規に立ち上げた「地域パートナーシップ会議」を生かし、地域と連携し、生徒を育てる事業（奉仕活動・広報活動等）を推進する。
③ 広報活動の充実	毎月発行している「七校だより」を継続するとともに、HPのさらなる充実（定期的な更新）のためのシステムを構築する。